

地域医療を考える住民集会

日時：令和 8 年 8 月 8 日（土） 13：30～
会場：花輪市民センター 講堂

鹿角市医療ビジョンについて （中間報告）

鹿角市地域医療推進室

本日の説明

- ① ビジョン策定の趣旨
- ② 国・県の医療に係る動向と市の対策
- ③ 鹿角市の現状と課題
- ④ 医療への期待
- ⑤ 鹿角市の医療の目指す姿

① ビジョン策定の趣旨

- ・ 人口減少や全国的な医師偏在による中核病院（かづの厚生病院）の診療体制縮小
- ・ 開業医の高齢化・後継者不足による診療維持への危機感
- ・ **すべての医療を地域内で完結することが困難な時代**



医療を提供する側と受ける側の双方の事情を踏まえ

10年後の鹿角の医療の姿を示す！

- ・ 現実を見据え、解像度の高いビジョンに！
- ・ 関係者間での意識の共有と共動の基盤に！

②-1 国・県の医療に係る動向

国の方針①医療圏の設定

- 都道府県毎に一次医療圏、二次医療圏、三次医療圏を設定
- 地域の医療需要に応じて、総合的に医療を提供するため
(人口、高齢者割合、疾病特性…)
- その圏域内で、必要な病床数の算定と確保がされる

②-1 国・県の医療に係る動向

秋田県の動き①

→令和6年3月策定「**秋田県医療保健福祉計画**」

人口減少に伴う患者の減少や高齢化に伴う疾病構造の変化、医師の働き方改革など社会状況の変化によって、このままでは地域医療を維持できなくなる恐れ

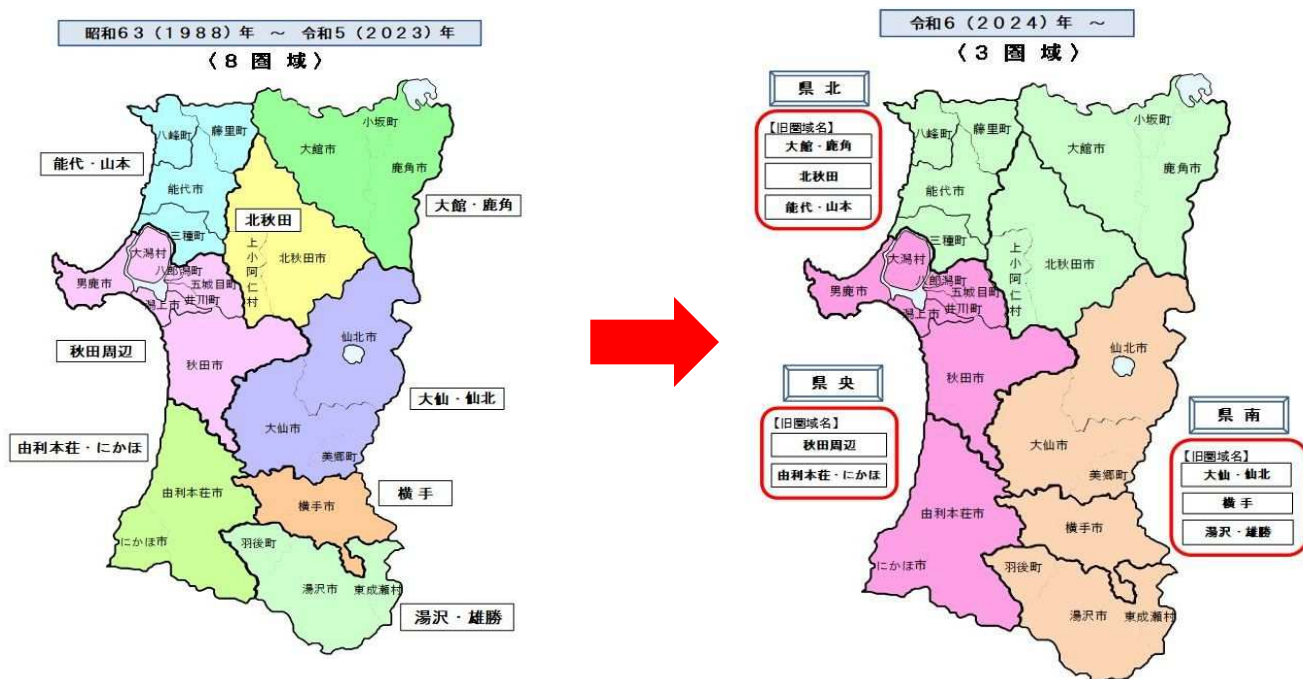


⇒二次医療圏については、

「これまでの8圏域から、**県北・県央・県南の3圏域**に」

※大館・鹿角から、北秋田・能代山本を含めた県北1つに

二次医療圏図



②-1 国・県の医療に係る動向

国の方針②新たな地域医療構想ガイドライン

- 人口20万人未満の区域では連携・再編・**集約化**などの見直しが必要
- 医療機関ごとの役割分担を求める（手術ができる病院、手術をしない病院など）（高度急性期、急性期、包括期、慢性期）

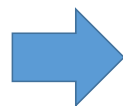
秋田県の動き②新たな地域医療構想を策定中（令和9年度策定予定）

- 二次医療圏内（県北地区）での役割分担を今後検討

②-1 国・県の医療に係る動向

国の方針③医師確保対策

- ・ 初期臨床研修制度
- ・ 働き方改革
- ・ 新専門医制度



**地域枠制度があっても、
医師が症例の多い都会
に集まる傾向**

秋田県の動き③

- ・ 医大への地域枠の設定
- ・ 医師確保計画策定

**医師偏在の解消につな
がっていない**

②-2 鹿角市の対策

(1) 医師確保対策

(修学資金貸付制度、新規医療機関の開設支援、岩手
医大見学ツアー、中高生のつどい)

(2) あんしん医療連携

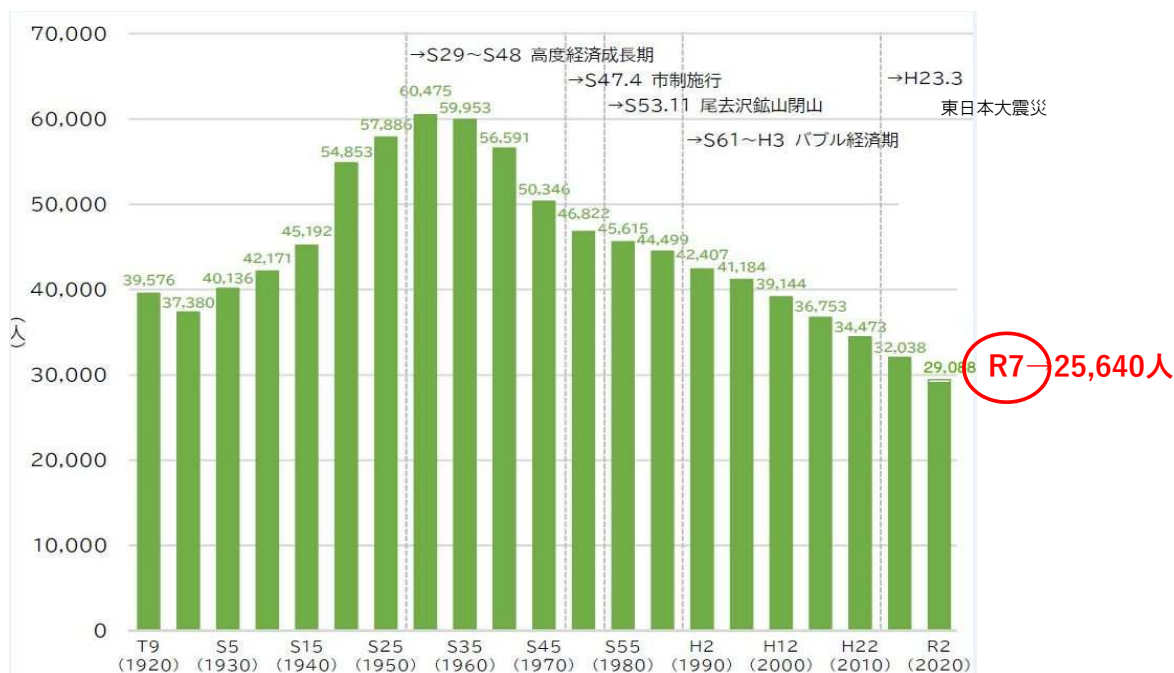
(在宅当番医・当番薬局制度・テレフォン病院24で
の電話相談)

(3) 中核病院への支援

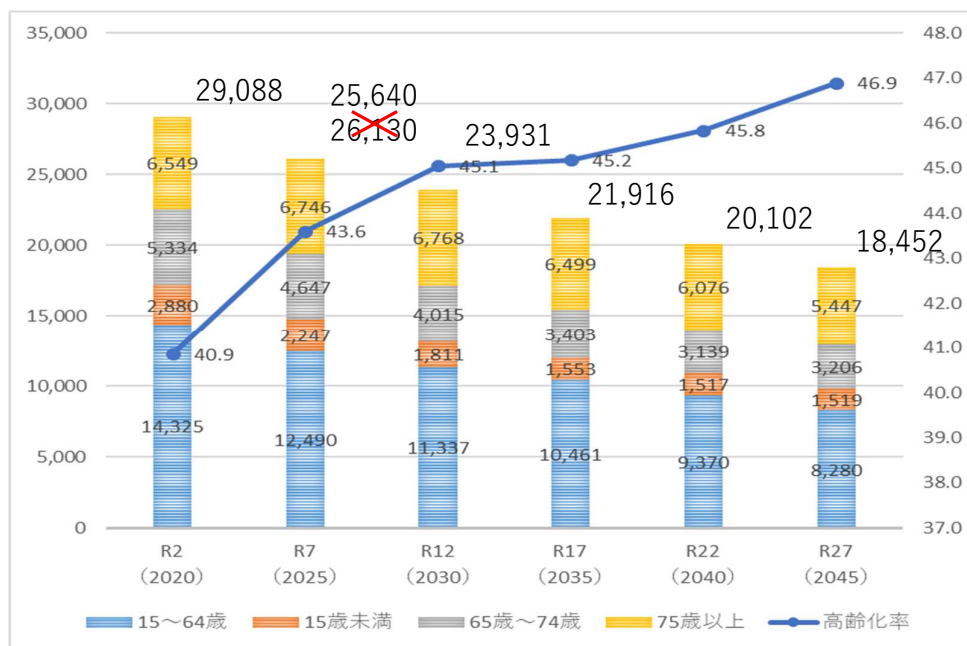
(かづの厚生病院への補助金交付)

…etc

③-1 鹿角市の人口動向



③-1 鹿角市の将来人口推計 (2040)

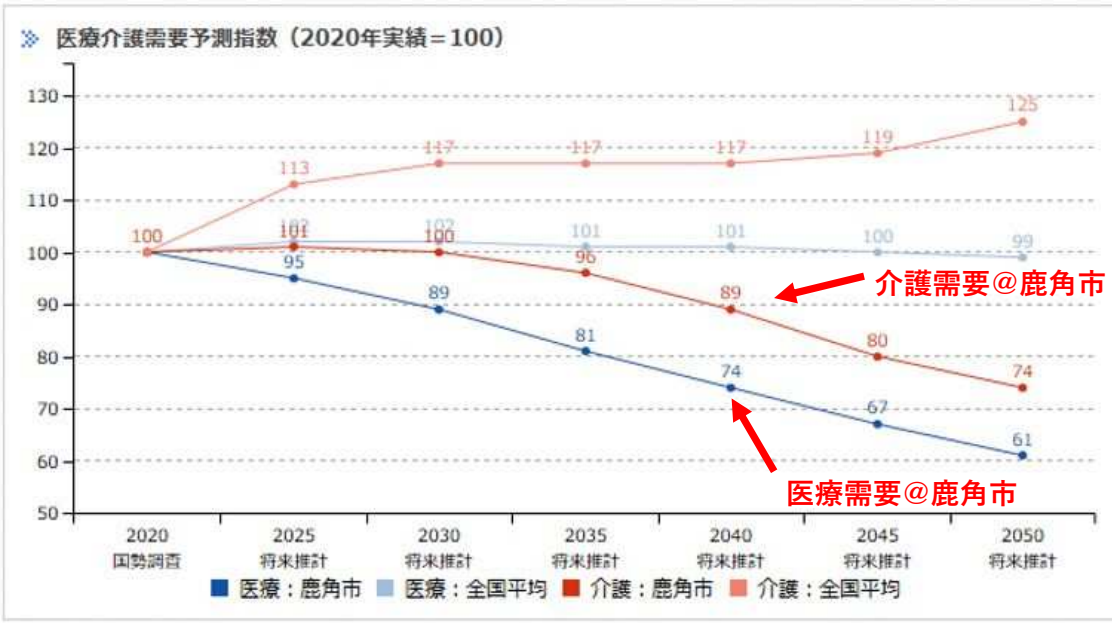


- ・総人口は減り続ける (R2比 ▲31%)
- ・生産年齢人口 (15~64歳) の減少が大きい (▲35%)
- ・高齢化率は上昇しつづける (40.9% ⇒ 45.8%)
- ・75歳以上の減少幅は小さい (▲7.2%)



患者が減る。
医療従事者も減る。

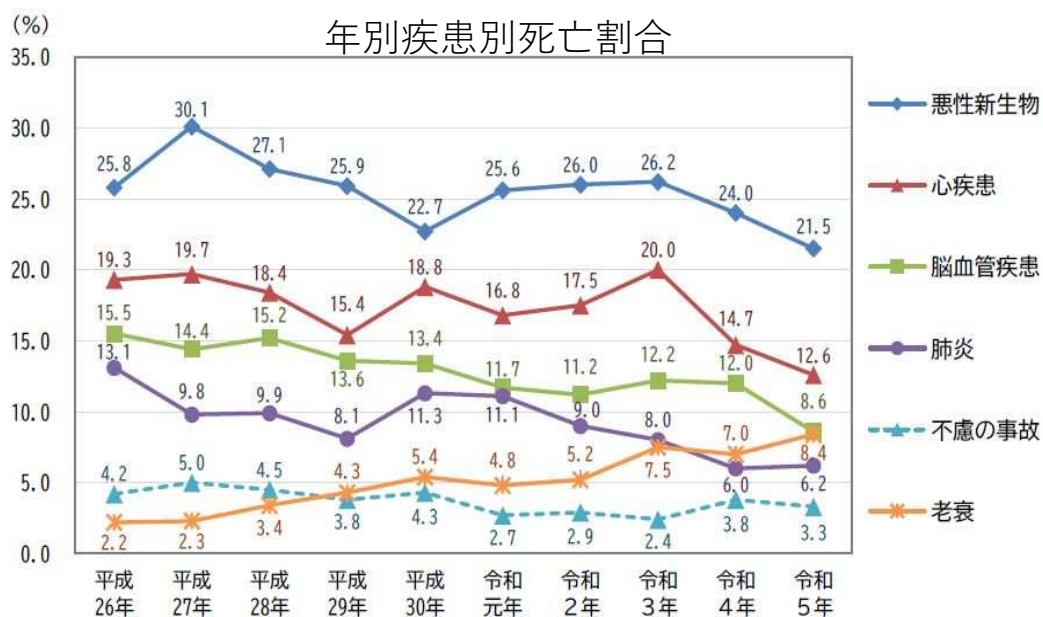
医療介護需要予測指数（日本医師会）



サービス施設が立地する自治体の規模



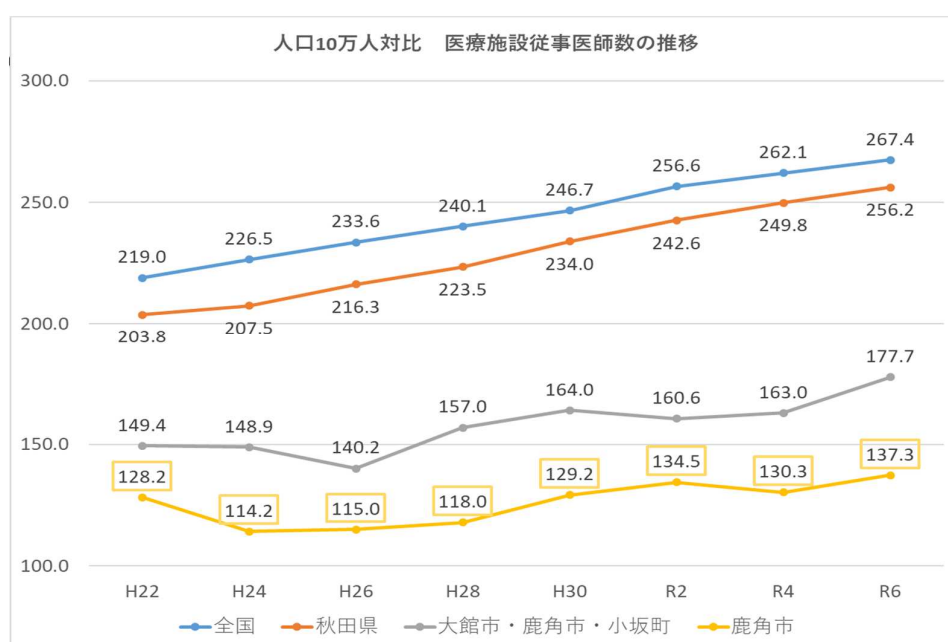
③-2 鹿角市の疾病特性



このほか、
 ・糖尿病
 ・精神疾患
 ・認知症

人口減少下
 でもニーズ
 増加傾向

③-3 鹿角市の医療提供体制/医師数

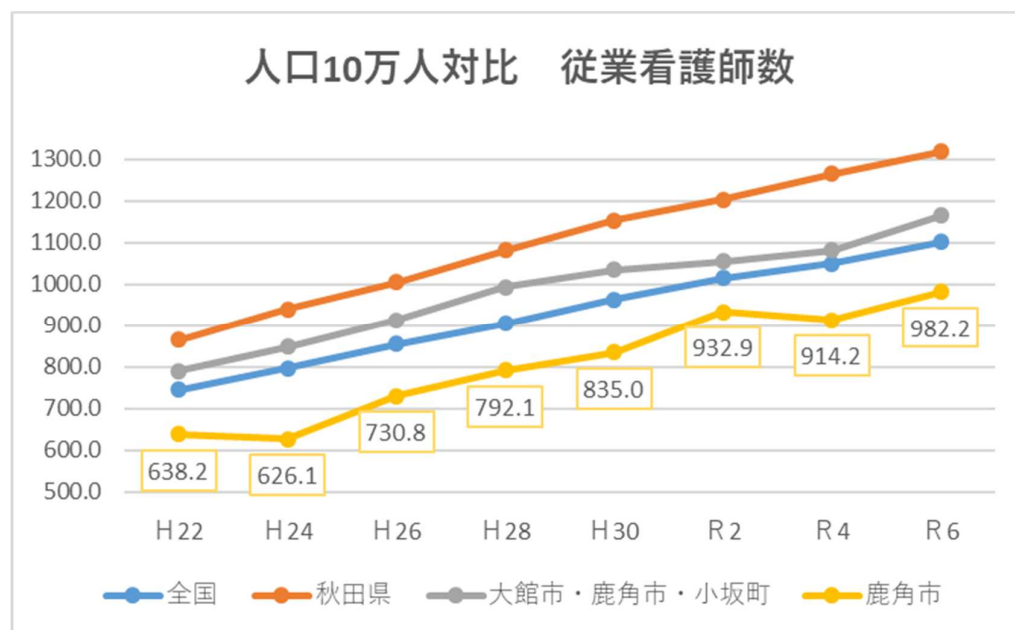


(人口10万人あたり)

・全国平均、秋田県平均と比較し、かなり少ない

・大館・鹿角・小坂平均をも下回っている

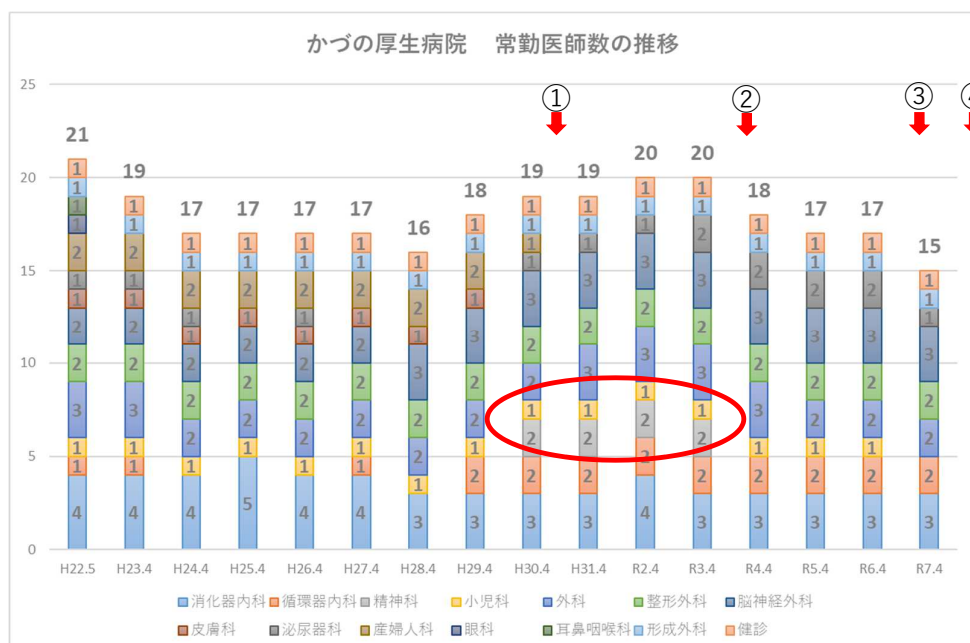
③-3 鹿角市の医療提供体制 / 看護師数



(人口10万人当たり)

・医師数と同様、
全国平均、秋田
県平均、大館・
鹿角・小坂平均
を下回る

③-4 かつの厚生病院の医療の現状 / 医師数

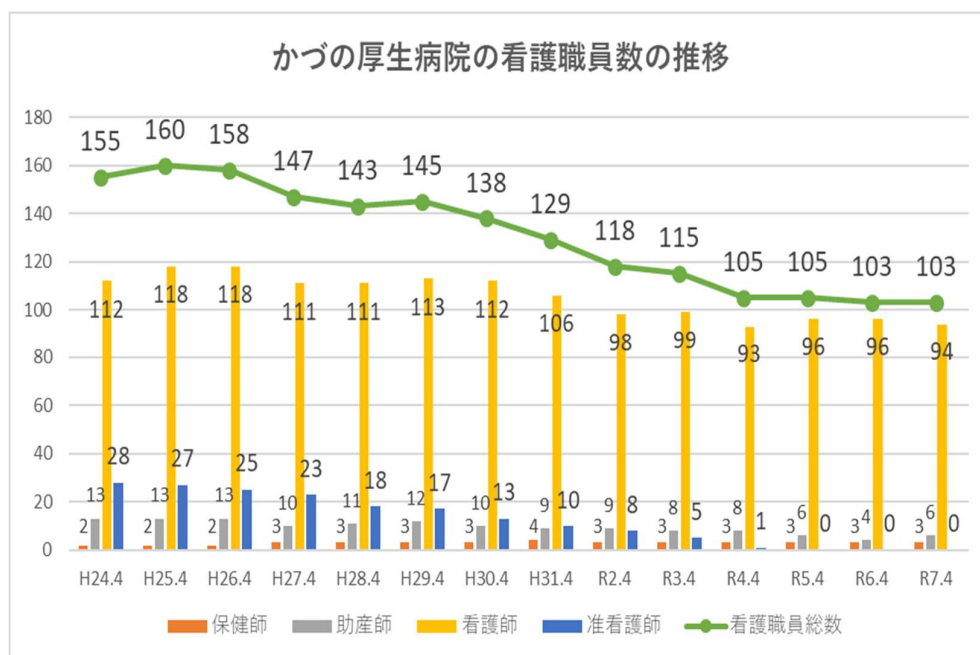


新病院開設当時 (H22)
21人 ⇒ 15人 (R7)

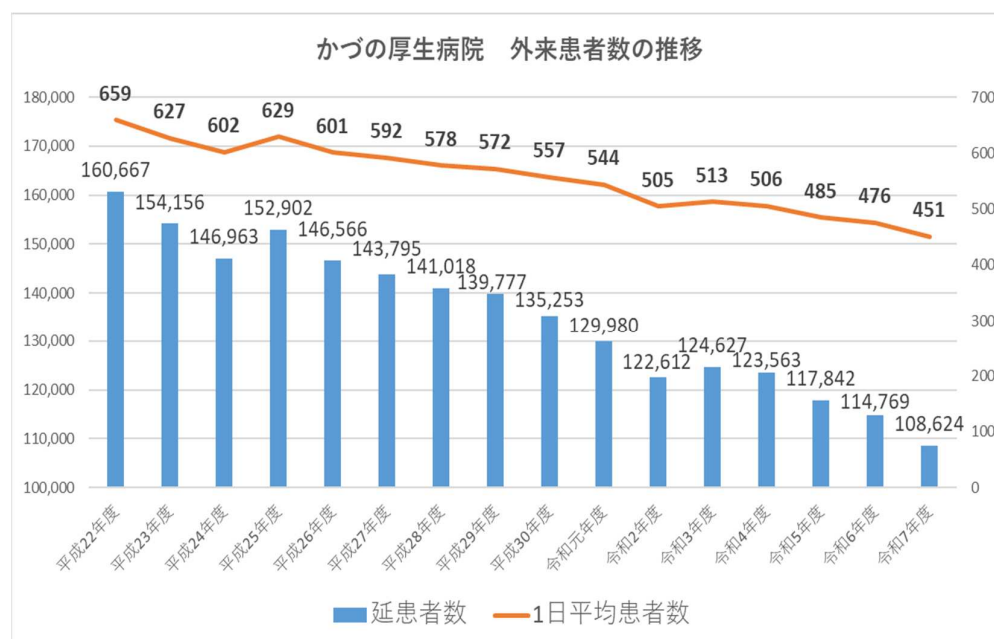
※R8～ 12人

- ①分娩機能、大館へ集約
- ②精神科医師 退職
- ③小児科、入院中止
- ④脳神経外科、入院中止

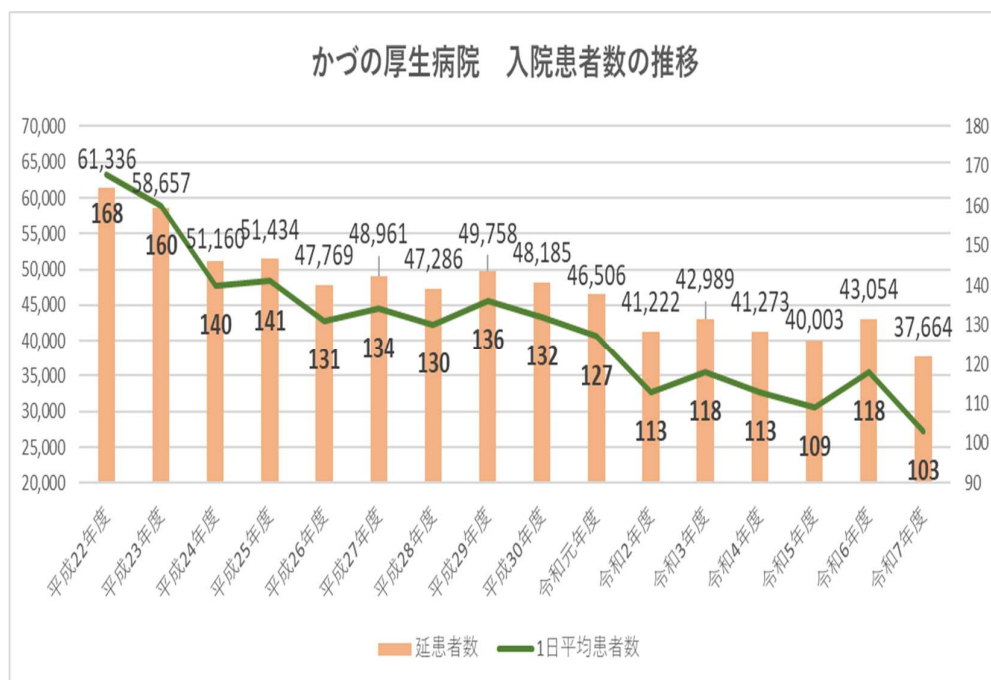
③-4 かつの厚生病院の医療の現状/看護師数



③-4 かつの厚生病院の医療の現状/外来患者数



③-4 かつの厚生病院の医療の現状/入院患者数



病床数も減少

H22 262床

R7 161床

③-4 かつの厚生病院の医療の現状/経営状況

平成20年度から令和7年度まで毎年度赤字を計上

【原因】

- ・ 患者減少
- ・ 不採算領域の診療科
- ・ 稼働病床割合の低さ
- ・ ランニングコスト増
- ・ 物価高騰 etc



運営体制見直しのため、
鹿角市・小坂町へ協議
の申し入れ

③-5 医療機関アンケートの結果

○病院・診療所・歯科診療所に共通

→患者減による経営悪化

→事業継続不安

○今後の事業継続可能性 「廃業を考えている」

診療所→25%

歯科診療所→43%

○「**かつの厚生病院の体制構築が最重要課題**」との
声多数

④-1 医療への期待 市民アンケート結果

・実施期間：令和8年5月28日～6月12日

・対象者：18歳から74歳までの鹿角市民 900人

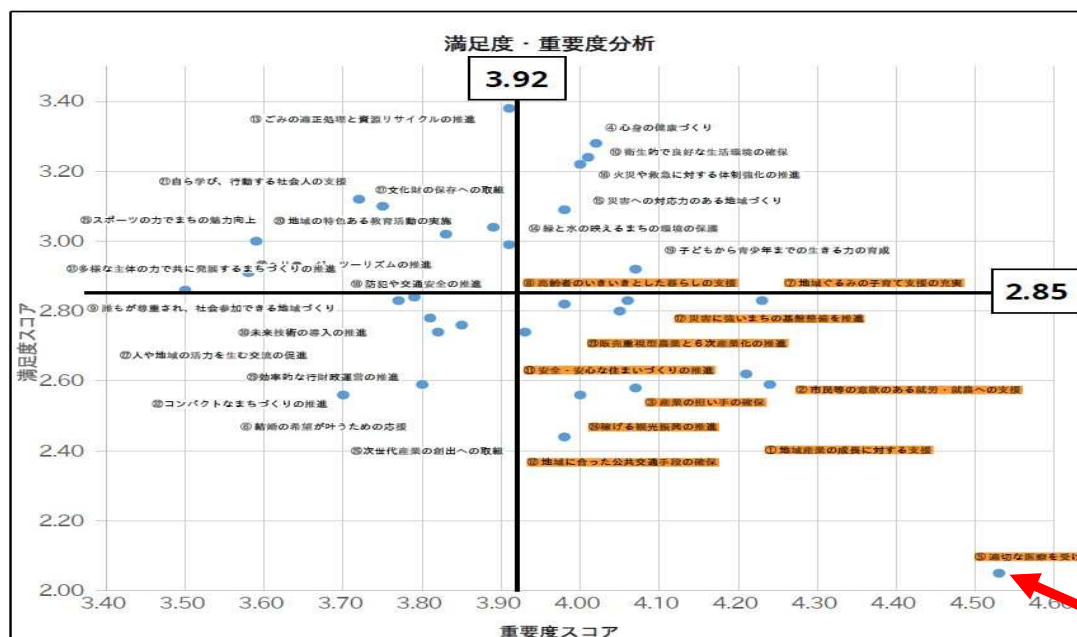
・回答者：489人（回答率54.3%）

市の政策32項目中、医療政策に対する評価

満足度→**最下位**（3年連続）

重要度→**1位**（9年連続）

④-1 市民アンケートの結果



④-2 医療への期待

/住民集会や市民団体からの意見・提案

- ① 医療機関・診療体制の持続性に関すること
 - ② 交通・通院手段に関すること
 - ③ 救急医療に関すること
 - ④ 受診時の経験や医師とのコミュニケーションに関すること
 - ⑤ 相談窓口・情報提供に関すること
 - ⑥ 医療機関へ出向かない診療に関すること
 - ⑦ 総合診療医・救急医による「適切な医療機関へつなぐ窓口」を求める意見
- …etc

④-2 医療への期待

【市民の期待 まとめ】

- ①必要な医療が受けられる安心感
- ②救急医療の確保
- ③通院負担の軽減
- ④相談窓口の充実

⑤ 鹿角市の医療の目指す姿

【現実】

集約は必須

【理想】

高度な医療も
市内で受けたい

【目指す姿】

維持可能な
水準は死守

アクセス
支 援

高度な医療は市外で、
身近な医療は市内で受けられるまち

⑤ 鹿角市の医療の目指す姿

【目指す姿 1】

医療相談窓口が充実し、市民の不安が軽減する

→相談窓口の充実

（電話相談、かかりつけ医機能、
将来的には総合診療医的な医師の配置）

⑤ 鹿角市の医療の目指す姿

【目指す姿 2】

高齢者救急・地域急性期機能までは市内で完結する

→初期の救急はかつの厚生病院を中心に市内で
→健診（検診）も受けられる

⑤ 鹿角市の医療の目指す姿

【目指す姿3】

市内外の医療機関を利用する際のアクセス手段が確保されている

→交通費支援

→移動手段の構築（シャトルバス、タクシー等）

→オンライン診療の導入（出向かない診療）